

冬真っ盛りの北海道です。こちらに来て初めて初詣に出かけましたのでご紹介します。

札幌で一番有名な神社と言われるのが『北海道神宮』です。明治2年に北海道開拓・発展の守護神として祀られています。桜と梅の名所として知られている円山公園内に立地しています。

神宮内へ入る際、鳥居が三つあり、その中の第三鳥居から参拝すれば、金運がアップすると言われています。ということで今回、私は第三鳥居から参拝しました。確かに境内には神秘的な空気を感じました。

もうひとつ必ず訪れるべき場所は『六花亭神宮店』です。北海道では有名な菓子メーカーですが、こちらの神宮店でのみ販売されている『判官さま』(はんがん)をぜひ食べてみて下さい。店内で焼かれている『焼き餅あんこ入り』と言えばよいかと思います。とろりとして絶品で縁起物なのでお勧めします。

購入するにあたり、40人程並ばれており、たまたま隣の方が『判官さま』の由来について話されていました。本殿入口手前の左手にある像は『島義勇(しまよしたけ)』という開拓判官であり、北海道の未来図を描いた人物で北海道開拓の父と称されています。彼が親しみを込めて『判官さま』と呼ばれていたことからきたようです。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

暦の上では春立ちましたが、変わらずの厳しい寒さが続いております。毎年ながら今回もスキーに行ってきました。スキー場と言えば『山形蔵王』が有名ですが、今回はみやぎ蔵王の『えぼしスキー場』に行き参りました。

当日は天候が良く、雪も溶けてシャバシャバになっているかと思っていましたが、最高気温がマイナスだったからなのか雪は溶けずサラサラでした。

いきなりですが、ゴンドラとリフトを乗り継いで頂上に。さすがに上級者コースからは降りられないので、迂回コースへ向かいました。

なんと頂上から下まで4.3kmのロングクルージングが楽しめるコースなのです。頂上からは太平洋の海が見え、当日は快晴無風。相馬港、仙台港を遠くに見渡せ爽快に滑れました。

帰り道には温泉街があるので、日帰り温泉にも入り充実した一日となりました。

仙台営業所(所長:山田 義一)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



アメリカにはたくさんの国立公園や州立公園があり、観光地として賑わっています。先日、自宅から車で5時間程度の距離にある、デスバレー国立公園に行ってきました。

デスバレーはカリフォルニア州とネバダ州に渡っており、全米の国立公園の中で最大の面積(約13万平方km)を誇る国立公園です。デスバレーは日本語訳をすれば『死の谷』となります。その名前の由来は、夏は摂氏55度を越える乾燥した天候下での暑さや水不足、起伏の激しい谷であることから、19世紀半ばのゴールドラッシュ時にこの谷を馬車で越えようとした来訪者が名付けたと言われています。

また、デスバレーは海拔が低い場所であり、海拔マイナス86mという北アメリカ大陸で最も低い海拔の観光スポットは『Bad Water』と呼ばれています。『Bad Water』とは体に悪い『有毒な水』という意味ではなく、塩分が海水よりも多く含まれた『飲めない水』という事らしく、現在の『Bad Water』では、ほとんどの水が蒸発して塩が残り、白い池が辺り一面広がっているように見えています。

今は公園内のほとんどの観光スポットの間近まで車で移動できるので、夏の炎天下で歩き続ける事はありませんが、勾配の大きい坂を車で走り続けると、車がオーバーヒートする事もよくあるそうです。ちなみに先日訪れた際は冬の時期で最低気温0度、最高気温15度前後といった気候でしたので、車のトラブルに見舞われる事はありませんでした。夏の酷暑がどんなに過酷か、体験したい気持ちも僅かながらありますが、安全第一で次回の訪問も冬の時期になりそうです(笑)。

KCS(アメリカ)(専務:江尻 拓馬)

合羽橋道具街にある『釜浅商店』さんの鉄製打ち出しフライパンに惚れこみ、注文を入れたのが約7ヶ月前。ようやくお店に届いたとの連絡があり、その週末に引き取りに出向きました。

名彫りも嬉しい、漢字では出来ないとのことで、ローマ字で名入れしてもらいました。世界にたった一つしかない唯一無二のフライパンです。今現在、我が家で大活躍中です。

道具を育てている感が物凄くあり、使えば使うほどに愛着が湧いてきます。料理には欠かせない道具ですが、大事にお手入れしていれば一生使えます。

調理後は洗剤では洗わず、竹ささらやたわしで洗い流し、その後必ず火を入れて油を塗りこんでいます。いい道具を作ってくれた釜浅商店さんに感謝して、また次の道具調達に近々お世話になりたいと思っています。

東京営業所(所長:木下 敦裕)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は富山県高岡市にある『伏木気象資料館』を紹介いたします。

富山県の天気予報を見ていると、よく『伏木』という地名が出てきます。今も風速風向計や日照計が置かれており、『伏木特別地域気象観測所』として気象データを供給している所にこの資料館はあります。

明治時代に『藤井能三』という人が、伏木港の産業振興・貿易を進める目的で設置した、伏木燈明台の一室に測候所を私的に設けたのが始まりです。明治20年に県営に移管された後、海岸に隣接していたため侵食や激浪により、明治42年には現資料館の場所へ移転されたようです。

昭和14年に国営に移管され『伏木測候所』として観測をしていましたが、平成10年に無人化になり、旧庁舎は平成17年に『伏木気象資料館』として整備されました(きれいな水色の建物ですが、かなりレトロな感じですよ)。

館内には過去からの気象観測に関する資料や、以前使用していた風速風向計などが展示されています。現在も観測自体は資料館横の敷地にある観測設備で続けられています(近代的な観測設備と旧測候所の古い建物が隣り合わせて歴史の変化を感じます)。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

休日の朝、一杯のコーヒーをゆっくり飲む、至福のひとつですね。

今回はいつもお世話になっているコーヒーについてよく知ってみたいと、神戸ポートアイランドにあるUCCコーヒー博物館に行ってきました。ここは日本唯一のコーヒー専門博物館。西洋でのコーヒーの歴史、日本への伝来時期、コーヒー畑の写真など色々な情報があります。興味深かったのは、コーヒー豆を入れる麻袋が各産地でデザインが違うこと。それぞれ額に入れて飾るとオシャレなインテリアになるなあと見惚れてしまいました。

焙煎で味が変わるのですが、ほぼ白い『ライトロースト』から真っ黒な『イタリアンロースト』まで8種類あり、焼き方ひとつでこんなに違うのだなと勉強になりました。豆の産地、種類、そしてブレンド、焙煎方法、抽出方法

で無限の種類の味が出せる奥深さを感じました。テイ스팅もでき、今回はコロンビアとキリマンジャロのコーヒーをちょっとずつ飲み比べてみると味の違いが歴然。

併設の喫茶室ではコーヒーの種類が多く、中には1杯¥2,500(1日5杯限定)のものも。私はパナマエスメラルダ、妻はブラジルタデウを頂きました。抽出方法はペーパードリップ、サイフォン、プレスから選択でき、2人ともプレスを選択。両方美味しいのは当然ですが、パナマの色は紅茶のようでちょっとフルーティー、しかもしっかりとしたコーヒー。初めて飲んで感動しました。喫茶室のみでも入れるので各コーヒーを制覇していきたいと思いました。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

寒い日が続きますが、皆様、体調にお変わりはありませんか?今年もインフルエンザが流行っていますので、体調には十分お気をつけ下さい。

さて、冬の定番と言えばやっぱり『鍋』。おでん、ちゃんこ鍋、もつ鍋などがありますが、個人的にはあっさりしてたくさん食べられる『水炊き』が一番好きです。今回は水炊き専門店『博多華味鳥』をご紹介しますと思います。落ち着いた雰囲気、店内が個室になっているため、周囲に気を遣わずにゆっくりとできるお店です。今回は基本コースで注文。まずは水炊きに使われるスープに、少量の塩とネギを入れて頂きます。鶏の出汁がしっかり出ており、濃厚でいてしつこくない絶妙な味で、これがたまたま美味しく美味いです。次に煮込まれていた鶏肉をポン酢につけていただきましたが、身がほろほろと崩れるくらい柔らかく、これもまた美味しいです。お鍋の締めはちゃんぽんと雑炊が選べますが、今回は雑炊で。塩とポン酢を少し入れて食べる雑炊はもう絶品です。水炊きでお腹がいっぱいなのに雑炊は別腹でした(汗)。

ちなみにこの『博多華味鳥』の水炊きセットはネット販売もされています。また他にも鴨鍋セットやもつ鍋セットなどもあります。機会がありましたら、是非お試しください。オススメです!

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

シンガポールには中国文化に因んだチャイナタウン、インド文化に因んだリトル・インディア、アラブ文化に因んだハジ・レーンがあります。

ハジ・レーンは、様々な種類の楽しみがある場所の1つです。ハジ・レーンと共に、バグダッドストリート、アラブストリートなどの興味深い場所が同じエリアにあります。主にマレー料理、中華料理を中心に美味しい料理を見つけることができます。この狭い通りを歩いていると、左右にある古いお店や家とともに、古い思い出が蘇ってきます。店舗は状態が良く、人々はレストランやショップとして利用しています。壁は美しく塗装されており、多くの観光客が写真を撮るためにここへ来ています。プロのカメラマンも、モデルの撮影に来ます。

夕方には、大勢の人が雰囲気と食べ物を楽しむためにバグダッドストリートを訪れます。テーブルと椅子がレストラン前に置かれ、屋外レストランになります!

この地域はアラブ文化が根付いていますが、マレーシアや中国など、他の文化も見つけることができます。とはいえ、この地域には多くのアラブ人が繊維製品を販売している通りがあります。昔から、アラブ人が占領していましたが、現在は文化が混ざり合っています。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

先日、オランダ南部でカーニバルがありました。また、ドイツではよくカーニバルが行われるなど、様々な地域で人気のある行事です。これは、民族フェスティバルであり、元々イエスキリスト断食前夜のカタリックフェスティバルで『懺悔の火曜日』と呼ばれています。伝統に従って、カーニバルは日曜日から火曜日の夕方『懺悔の火曜日』まで続きます。

カーニバルの間、人々は飲み物、食べ物で祝います。カーニバルをお祝っている人たちは、3日目、思い思いにドレスアップし、通りやカフェにいます。パーティー会場は仮面と蛇の装飾が施され、音楽はカーニバルのレ

パートリーで構成されています。この時期に特別に制作された音楽は、ローカルなオランダの曲がほとんどです。

カーニバルの内1日は、『カーニバル王子の行進』で、通りを練り歩きます。都市や町、村には多くのカーニバル協会があり、素晴らしいフロートで行列をつくり、集まった地元の方に見せながら通り抜けます。

オランダ南部で開催されるカーニバルは、人々が集まって楽しい時間を過ごす数日間、盛大に祝われます。

KIO(オランダ)(GM: Jan van Mier)

先月末、二番目の子が日本へのツアーに参加しました。

東京で大学や、若者の町である新宿、渋谷、秋葉原などを観光しました。ちょうどその頃、東京周辺はもの凄く寒く、雪が久しぶりに積もっていました。インドネシアでは一年の殆どが夏(25~35°C)であり、雪が降ることはありません。彼女にとって雪を見ることは初体験であり、とても興奮し隠せなかったそうです。また、彼女にとって日本は二回目の旅行です。一回目は中学生の時、今回は大学4年生で、日本の見方はやっぱり違っています。

今回は日本の良い点にたくさん気がついて、忘れられないくらい良い印象だったそうです。車の運転マナー、信号をちゃんと守ること、挨拶、人の並び方、駅の綺麗さ、電車の中の雰囲気、とても便利で生活しやすい印象を受け、チャンスがあれば是非また日本に行きたいそうです。私が3月に日本で会議があることを彼女が知り、「お父さん、一緒にまた日本に連れてってください」と言われました。「いやあ、仕事で短期間だけなのでダメですよ」と答えると、彼女は少し悲しそうな顔をしていました。

KJ(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

日本列島は寒波の影響で寒い日が続いている様ですが、皆様お元気でしょうか?ここ蘇州でも同じ寒波の影響で10年ぶりの大雪となりました。雪自体は白く綺麗で、街はいつもの見慣れた風景とは違い新鮮な気分になります。この雪が溶けて街も綺麗になれば…と願っております。しかし、冬になると空気の悪さが気になります。一番の原因は、冬場の暖房用で使われる石炭による排出ガスです。最近では電気や天然ガスに変える為、一時的に工場や民家等に計画停電が行われています。蘇州が位置する華東地域でも実施され、知り合いの会社はその影響で操業を停止しており、我々もいつ停電になるのか心配です。

さて、先日テレビを見てみると、西安に高さ100mの世界最大空気清浄機を建築し効果が出ているとのニュースが流れていました。思わず「マジか?!」とつぶやいてしまいましたが、空気が汚染されたら強力な空気清浄機を作ればキレイになるという発想が実現してしまうとは…。仕組みは汚染された空気を温室に吸い込んで、太陽光エネルギーで加熱し、熱風になった空気を複数のフィルターを通して、放出するとのことでした。

ニュースによると、西安近郊10平方kmの地域でPM2.5の数値が15%減少したとのこと。西安に行く機会があれば、その効果を体験してみたいと思います。

KHE(中国・蘇州)(総経理:板垣 仁志)